

ステークホルダー会議の開催について

なごや循環型社会・しみん提案会議
実行委員会

1. プログラムと本日のねらい

本日は、

参加型会議への理解

(趣旨・経緯・目的など)

**ステークホルダー同士
を良く知ってもらう**

**ごみに関する基本的な
情報を頭に入れてもらう**

**議論に必要な追加情報
をリクエストしてもらう**

の4つを目的に実施します。

本日のプログラムは、

13:30 ~ 13:35	主催者挨拶
13:35 ~ 13:50	会議開催に関する説明
13:50 ~ 14:00	会議の進め方について説明
14:00 ~ 14:05	質疑応答
14:05 ~ 14:35	自己紹介(班別)
14:35 ~ 14:50	休憩
14:50 ~ 15:15	なごやのごみ問題の説明
15:15 ~ 15:25	参加型会議の先行例の紹介
15:25 ~ 15:30	質疑応答
15:30 ~ 15:35	名古屋市アンケートの紹介
15:35 ~ 16:15	必要な情報の確認(班別)
16:15 ~ 16:25	各班からの報告
16:25 ~ 16:30	次回に向けての報告

です。

2. ステークホルダーの皆様へ

ステークホルダーとは・・・

ある問題に対して、何らかの関わりを持つ当事者

ごみ問題について言えば、

- ・ごみになる製品を生産する企業
 - ・製品を購入しごみを出す生活者
 - ・ごみを処理する事業者
 - ・ごみ処理計画を策定する行政
- などが該当します。

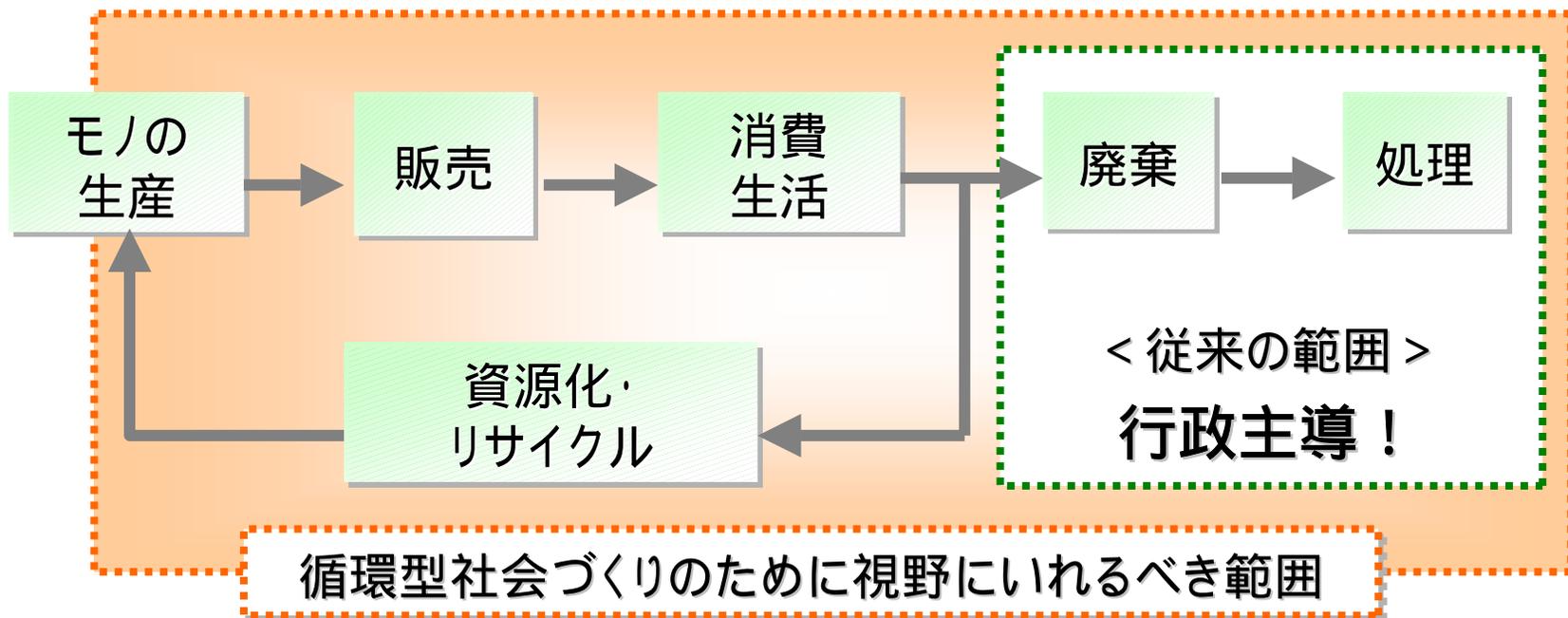
ステークホルダーの選出

実行委員会において、なごやのごみ問題に深い関わりをもつ企業、地域団体、NPO、市民等の分野から、適任と思われる候補者を検討し、参加依頼を行いました。

行政(名古屋市)
ごみ処理業者, 資源再生業者
製造業者
販売業者
地域役員, 地域団体
NPO, 市民団体
公募市民

「広報なごや(8/1-21)」やチラシ等で一般公募を行い、9名の応募がありました。選考委員会(実行委員会委員で構成)による書類審査・面接を経て、3名の公募市民を選出しました。

3. 今回の取組みの背景



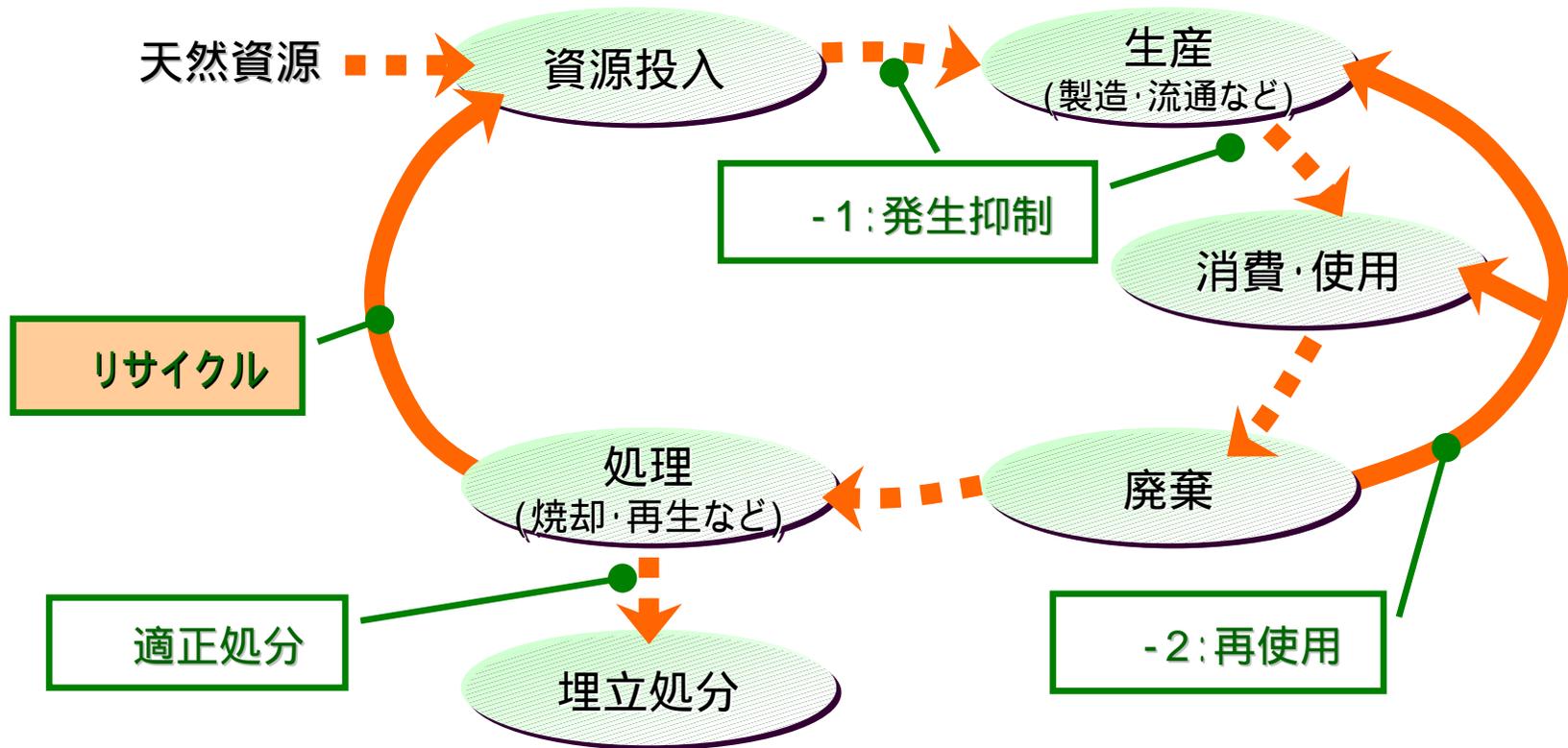
市民の参加の内容
(従来の調査・施策等への協力に加え)
意思決定、そして取組主体としての参加が求められる。

(参考) 循環型社会づくりとは...?

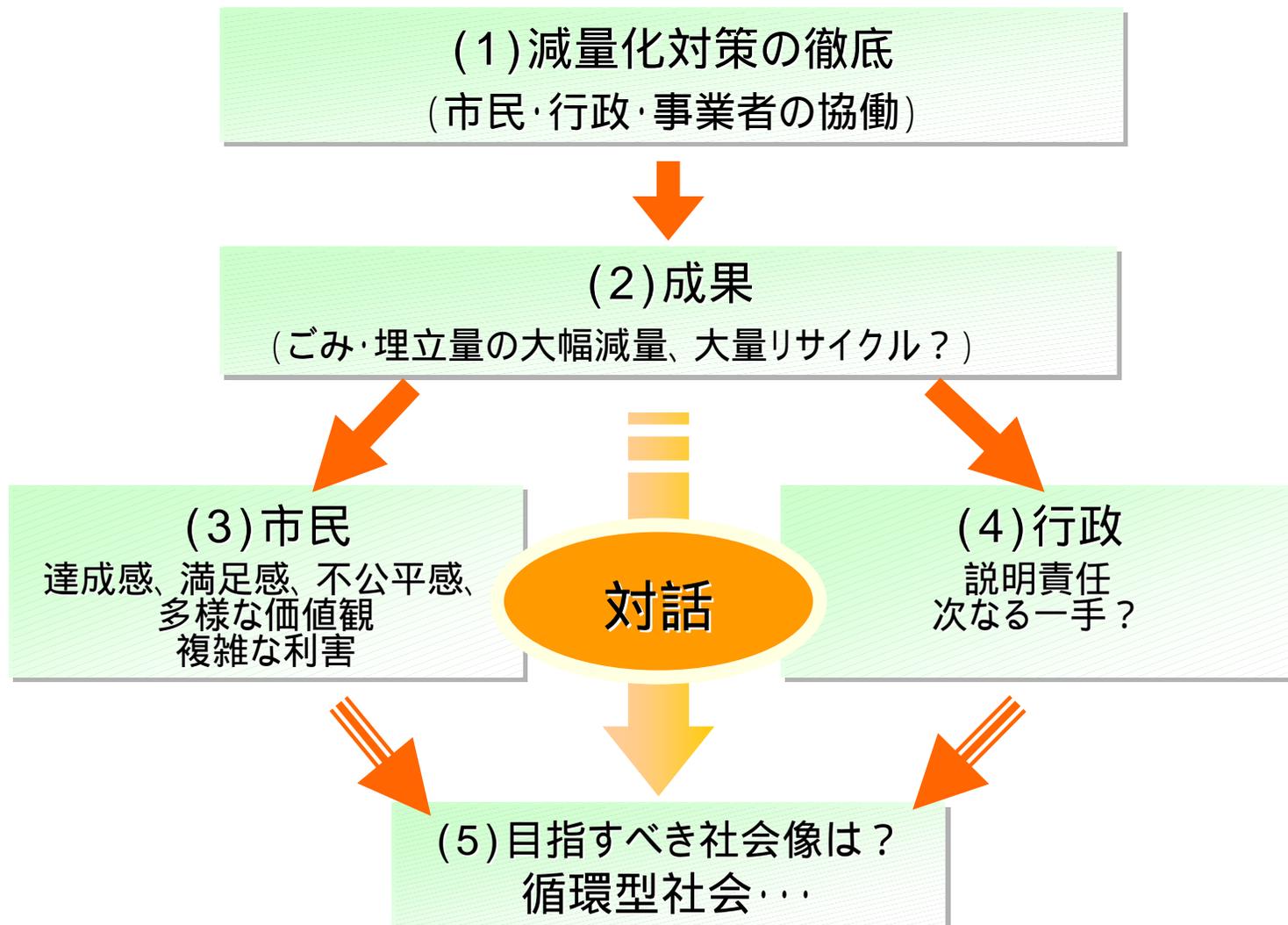
『循環』や『循環型社会』については、有識者などから様々な考え方が示されています。以下では、循環型社会形成推進基本法による定義を紹介します。

製品等が廃棄物等(不要物)となることを抑制
排出された廃棄物等についてはできるだけ資源として利用
最後にどうしても利用できないものは適正に処分

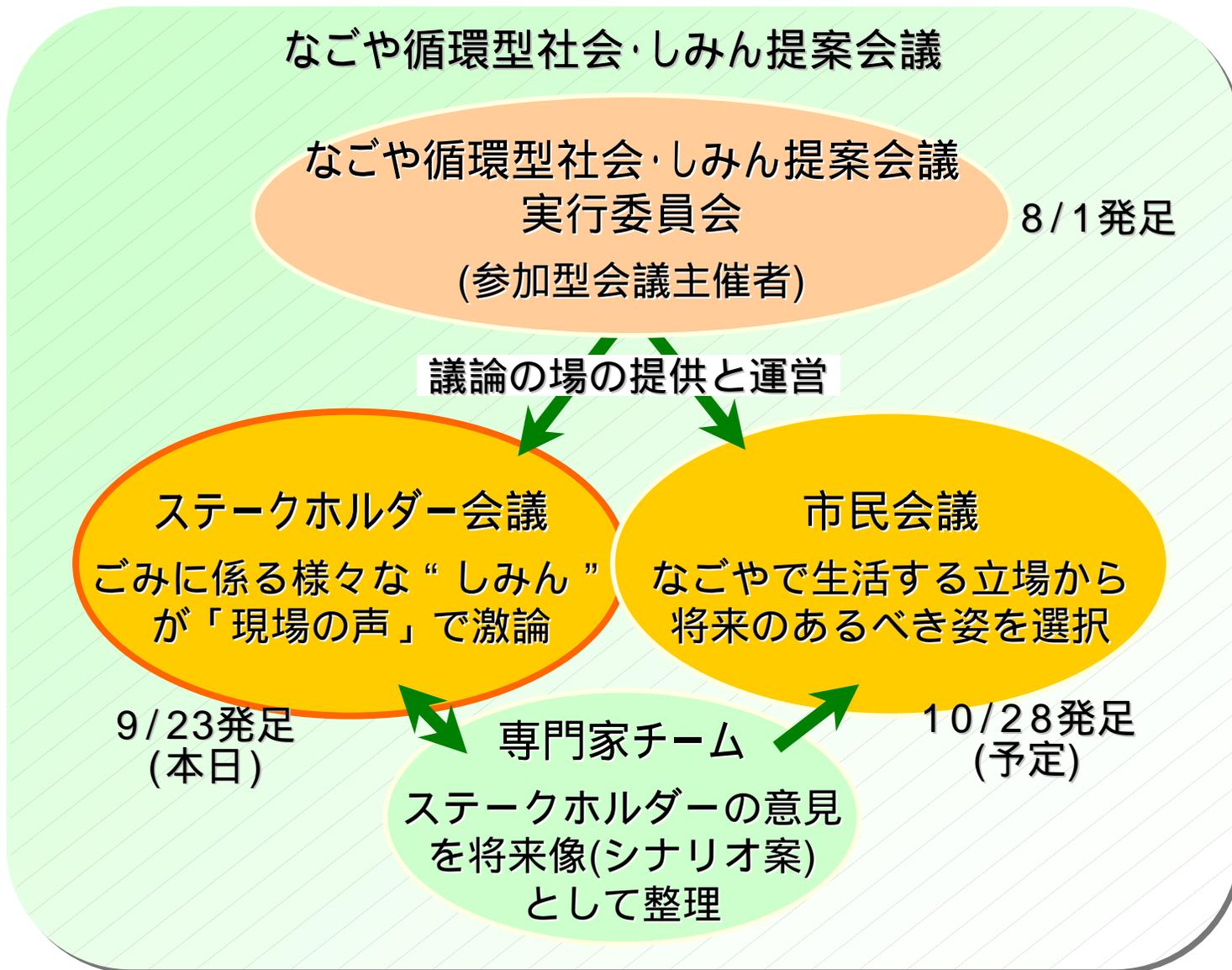
天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が低減される社会



4. 循環型社会づくりにもつての対話の意義



5. 参加型会議の実施体制について



6. 全体のねらい

なごやの社会を構成する全ての構成員である事業者、NPO、市民、行政等の「しみん」が、なごやが目指すべき循環型社会の目標と実現のための道筋について、情報を共有し、議論を深め、出来る限りの合意点を見出し、ビジョンとして取りまとめ、「しみん提案」として発信することを最終的なゴールとします。

なごや循環型社会・しみん提案会議

← ステークホルダー，市民

しみん提案(目標と道筋)

第4次 名古屋市
ごみ処理基本計画
(行政の取り組み)

企業の
取り組み

地域組織
・団体、NPO
の取り組み

市民の
取り組み

パートナーシップ型の取り組み

見直し

実践

循環型社会(目標)の実現

7. 2年間を通じた活動の目標

1年目

なごやにおいて実現したい循環型社会の姿を描きます。また、そのような社会の実現のための取り組みの方向を明らかにするために討議を行います。

15～20年程度の将来を展望します。

ごみ問題に焦点をあてます。

骨太の方針を描きます。



2年目

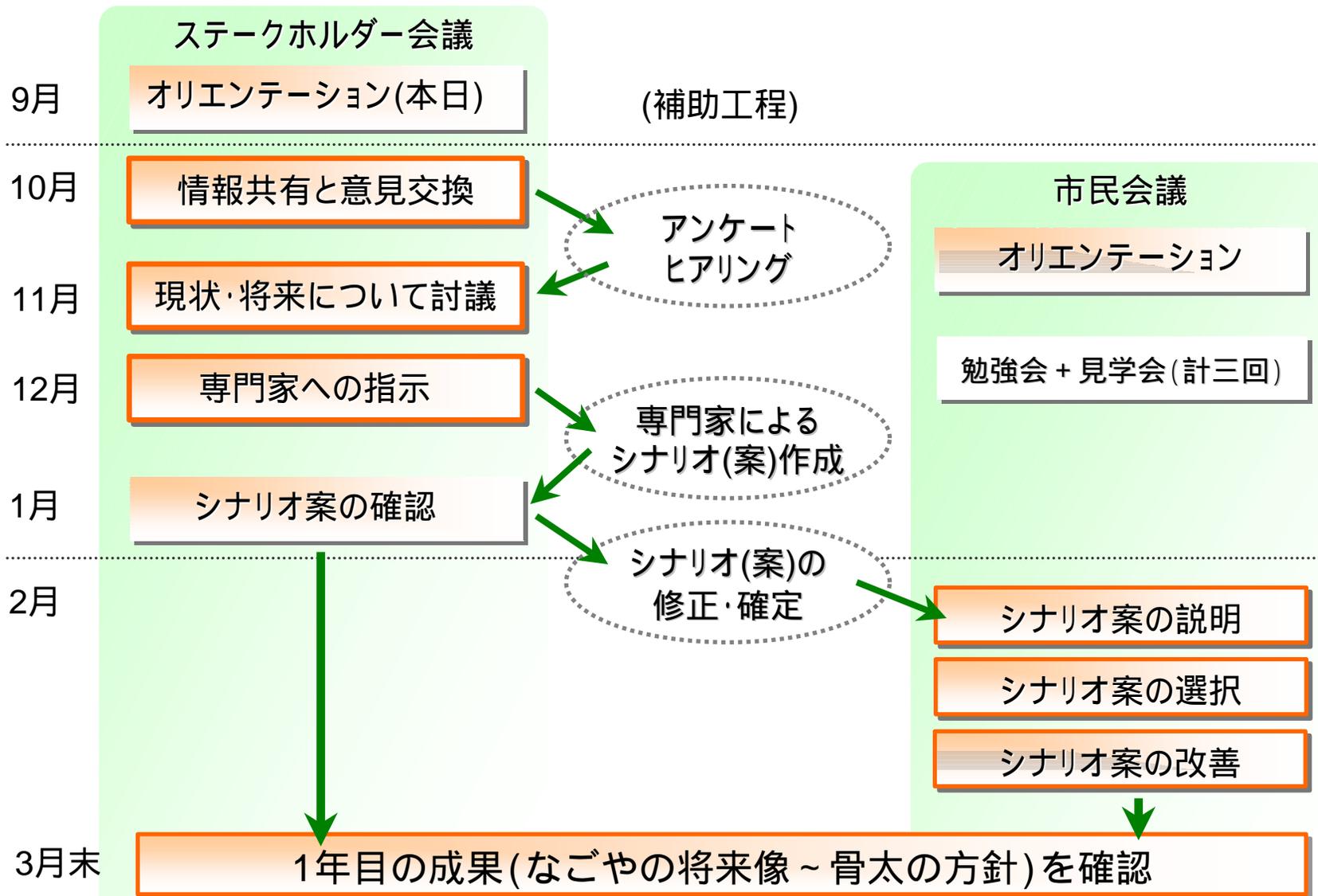
循環型社会の実現に向け、具体的な取り組みを進めていく上での検討課題について議論を深めます。

検討課題は、賛否(意見)の開きがある重要な論点のうち、参加者で共有できるものを絞り込みます。

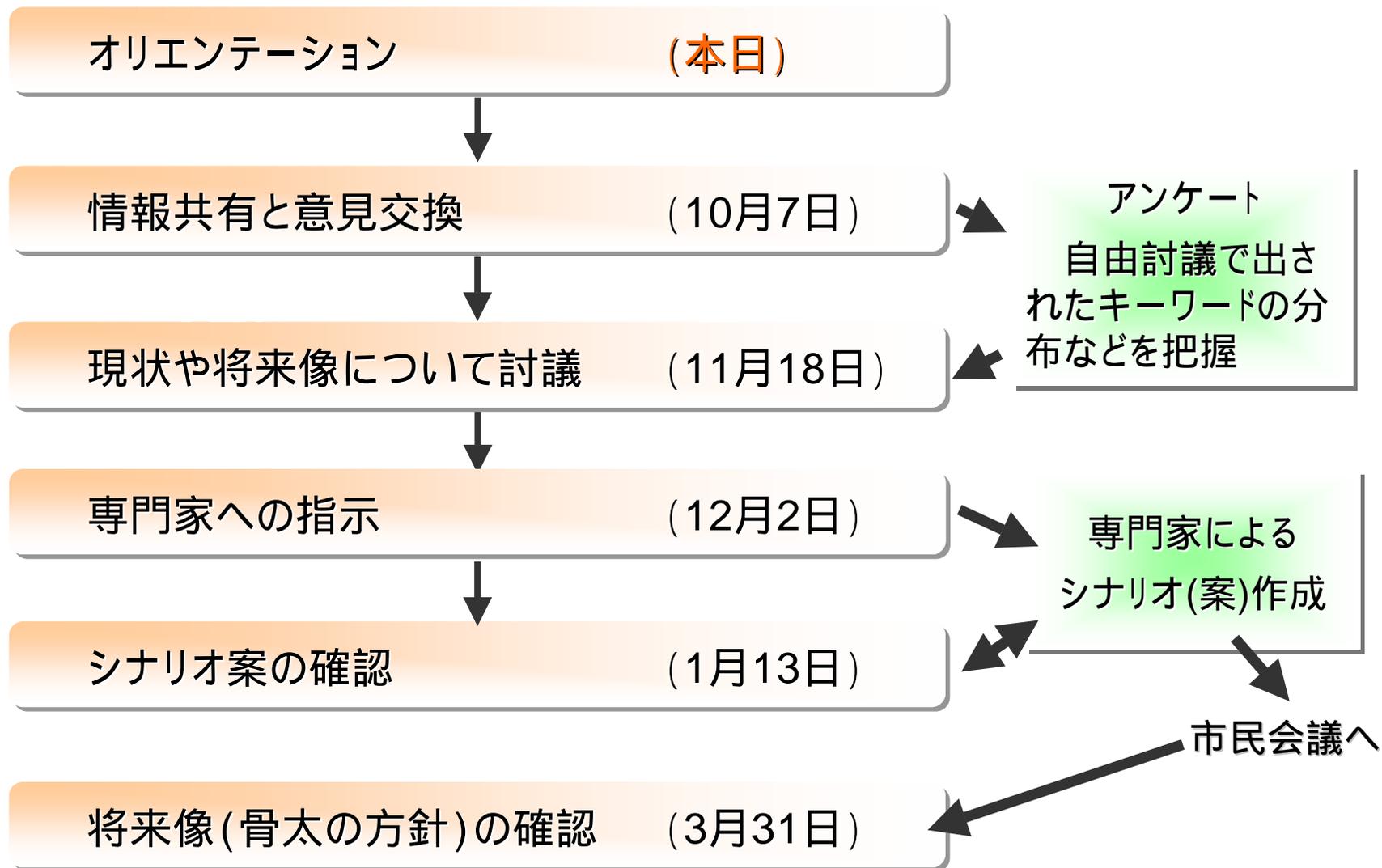
議論の方法は今後の検討課題です。(1年目と同じ方法をとるか否かは要検討)

個別課題の深掘りです。

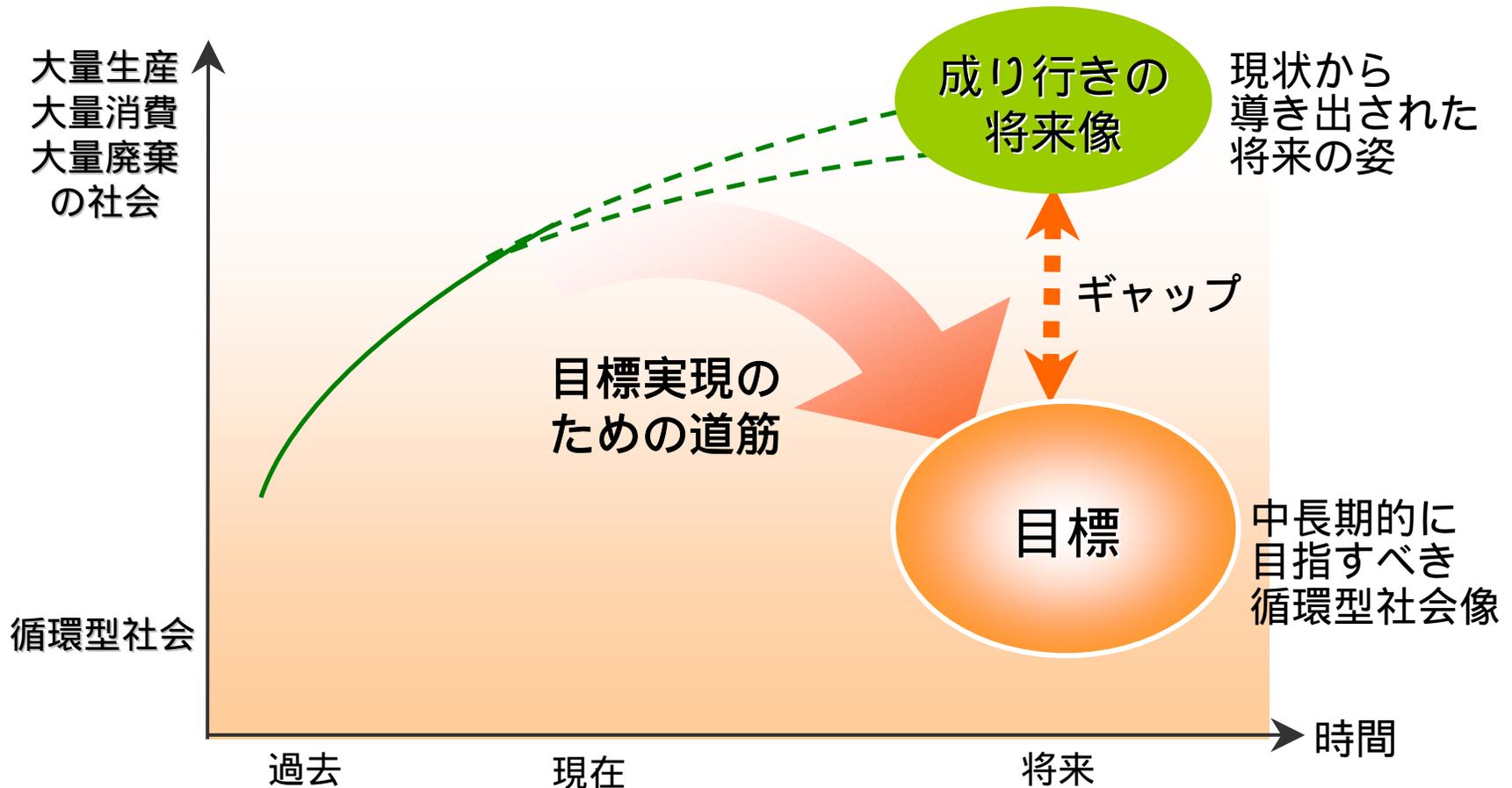
8. 今年度(1年目)のスケジュール



9. 各回の会議で行うこと



10. 現状の制約などに捉われない議論にむけて



…過去や現状の制約に捉われない思い切りのよい議論